

上越の国有林における取組

—令和4年度—

上越森林管理署



新潟県内の各森林管理(支)署は、国有林で実施している一貫作業システムや生産性向上の取組等について、民有林関係者に広く技術の普及をするため、平成29年度から現地検討会等を実施しているところです。

- 上越地域森林整備推進協定(森林共同施業団地候補地)の現地検討会とドローン操作説明と演習
- 丸太採材技術と丸太検知等現地勉強会
- 委託販売(競り売り)の見学と売れる丸太のはい積の仕分け方

■ 上越地域森林整備推進協定(森林共同施業団地候補地)の現地検討会とドローン操作説明と演習

【目的】

上越森林管理署では、民国連携の取組として、上越地域の民有林と国有林が隣接する区域において、森林共同施業団地を設定し、それぞれの関係者が、森林作業道の開設や森林整備(間伐や保育作業等)に関する事項を定め、協定者が連携して効率的かつ安定的な木材供給と事業の集約化を推進し、林業経営の基盤づくりと森林整備を推進することを目的としてきたところです。

今年度は、以前から検討を進めてきた国有林の施業実施予定候補地について、現地で検討を行うためメンバーが集まり、地上と上空から踏査し、今後の取り扱いとUAV(ドローン)の操作の演習等を行いました。

【検討会の実施内容】

国有林の施業実施予定候補地は、林齢：67年生、樹種：スギ40%、広葉樹60%の混交林、平均樹高：スギ13m、広葉樹10m、将来の林型：スギ複層林という林況を説明後、地上と上空(UAVを使用)から候補地を踏査し、参加者メンバーへ意見を伺ったところ、「林齢のわりには成長が良くない。現時点では伐採は行わない方がいいのでは・・・!!」などの意見が出されました。



参加者は、UAV(ドローン)を飛行させたことがない者がほとんどであった!!

【検討会の実施内容】

国有林の施業予定候補地の踏査のあと、参加者メンバーにUAV（ドローン）の操作説明とUAV（ドローン）を実際に飛ばしてもらい演習していただきました。



【今後の展望】

引き続き、同一地域内で、共同で確実に施業が実施ができる箇所の洗い出しを行い、施業箇所が一目でわかるよう図面（GIS等）に落とし情報の共有を図っていくこととしました。

また、参加メンバーの各機関では、まだまだUAV（ドローン）が普及していないことから、今後は、民有林に係る部分の林況の把握にUAV（ドローン）を活用できればと考えています。




丸太採材技術と丸太検知現地勉強会

【目的】

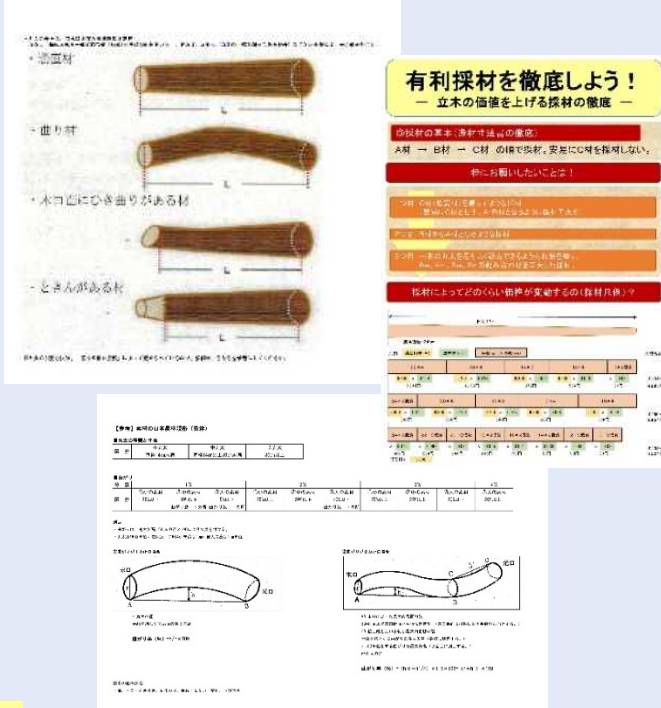
請負事業体等の職員及び当署の職員を対象に丸太採材の方法を目的に勉強会を開催しました。

また、丸太検知について、経験の少ない参加者を対象に丸太の検知を行いながら、体験と勉強をしていただきました。

令和4年度
丸太採材技術等の勉強会



令和4年11月9日
関東森林管理局
上越森林管理署



有利採材を徹底しよう！
— 立木の価値を上げる採材の徹底 —

◎採材の基本（適切な採材の順序）
A材 → B材 → C材 の順で採材。皮荒れに可を採りしない。

◎採材の順番に注意！

① 幹の太さ（直径）を測り、適切な太さを確保する。
② 幹の長さ（長さ）を測り、適切な長さを確保する。
③ 幹の曲がり（曲がり）を確認し、適切な曲がりを持つ材を確保する。
④ 幹の節（節）を確認し、適切な節を持つ材を確保する。

◎採材によってどのくらい価格が変動する（採材の価値）？

採材の種類	1本あたりの価格	10本あたりの価格
A材	10,000円	100,000円
B材	8,000円	80,000円
C材	6,000円	60,000円

【丸太採材勉強会の実施内容】

今回の検討会では、参加メンバーを3班に分け、それぞれ採材してもらい、採材にどのような違いが出て、どのような結果が現れるか、また意見交換を行いました。

- スギ素材は、曲がりのあるものを1本用意
 - 採材者は、事業体、職員、担当者の3班によりそれぞれ採材方法を検討
 - 素材の見方の違いでそれぞれ採材の違いの検討
- なお、素材の欠点は、曲がりのみを重視



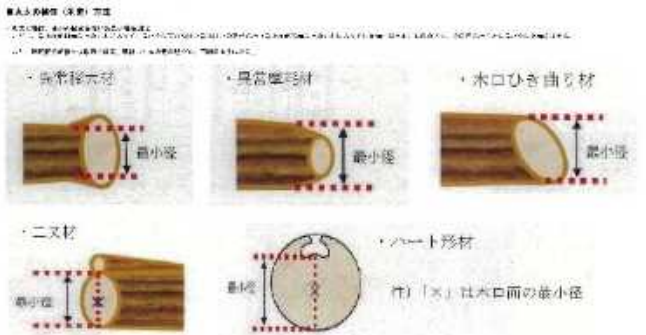
【今後の展望】

各班ごとに採材を実施した結果、曲がりの見方に差があり、6.0mに採材を検討した班もみられました。

今後は、曲がりがあるからただ単に2.0mに採材するのではなく、曲がりの許容範囲はどのくらいなのか、どこで長材を採材するかなど、地域での採材に対する知見が図られるよう進めていきます。

【丸太検知の実施内容】

丸太検知の勉強会では、林業事業体職員と当署職員の中で、検知を実際に行ったことがない者を対象にそれぞれ丸太検知の体験を兼ねて実施していただきました。



■委託販売（競り売り）の見学と売れる丸太のはい積の仕分け方

当署では今年度、素材の委託販売を実施したことから、民国連携メンバー（県、市、林業事業体職員等）に呼びかけ、委託販売（競り売り）の見学と売れるための丸太はい積の仕分け方について、新潟県森林組合連合会の職員を講師に勉強会を開催しました。



【目的】

今年度の製品生産事業において出材した丸太が、実際の市場でどのように仕分けられ、また売れるようにどのようなはい積を行っているのかを勉強することを目的としました。



【勉強会の実施内容】

今回、535本、167,270m³の丸太を38櫃に仕分けした理由について、新潟県森林組合連合会の大河原販売課長より、曲がりや腐れや多節材等の欠点と丸太長級と径級の踏まえ、1本1本確認し仕分けを行った旨の説明を受けました。

また、はい積した後に欠点がわかった場合は、可能な限り仕分けしたとのことでした。



【今後の展望】

川上、川中まで丸太の一連の流れを勉強したことから、今後は、川下である製材工場、その先のハウスメーカーの見学を実施し、どのような形に製材されるのかなどを勉強し、個々の意識の向上から上越地域の森林・林業の向上に繋げていけるよう取り組んでいきます。